

神楽と祭文の中世

斎藤英喜・井上隆弘 編

変容する信仰のかたち

▶A5判・390頁／定価：本体 8,000円（税別） ISBN978-4-7842-1871-4

2016年12月刊行

「民俗芸能」と呼ばれ、古代以来伝わるものとされる「神楽」。しかしその中には、牛頭天王や荒神のような異神の信仰が隠されていたし、死霊にかかわる祭儀など、常識的な理解では説明できない様々な形が存在する。それらの深層を探ると、そこには混沌とした「中世」の信仰のかたちが現れる。この中世の信仰と思想を伝える「祭文」を中心に、中世神楽および関連する陰陽道・密教・アジアの巫俗の世界を読み解く意欲作。

∞予定内容目次∞

総論 神楽・祭文研究の現在と課題（井上隆弘・斎藤英喜）
神楽編／祭文編／各章の概説

I 陰陽道・密教・中世神話・アジア

第1章 陰陽道祭文の位置—『祭文部類』を中心に—（梅田千尋）
陰陽道祭文の成立と展開／『祭文部類』の神々

第2章 五形祭文と五蔵曼荼羅（阿部泰郎）
—中世日本の宗教的身体論の系譜—
花祭と神楽における「五形祭文」／「五形祭文」の地平／五蔵曼荼羅と五蔵音義

第3章 大土公神祭文・考—暦神たちの中世神楽へ—（斎藤英喜）
『篋篋内伝』のなかの「五帝龍王」譚／奥三河「大土公神経」／いざなぎ流「大どっくの祭文（祭文）」

第4章 牽かれゆく神霊（北條勝貴）
—東アジアの比較民俗からみる死者の浄化—
浄化手段としての牽引／「指路教」における〈道行き〉の意義

II 生成する祭文の世界

第5章 神祇講式を招し祈らん（星優也）
—蘭牟田神舞「初利の法者、初利の小神子」をめぐって—
蘭牟田神舞をめぐって／変貌する『神祇講式』／蘭牟田神舞における『神祇講式』

第6章 奥三河の宗教文化と祭文（松山由布子）
奥三河の花太夫と病人祈禱の祭文／『牛頭天王嶋渡り祭文』と津島社
／『御歳徳神祭文』と奥三河の疫神信仰

第7章 物語化する祭文（神田竜浩）
—日向琵琶盲僧の釈文「五郎王子」の事例から—
九州の琵琶盲僧と永田法順／五郎王子とは何か？／琵琶盲僧の釈文
「五郎王子」／釈文「五郎王子」についての考察

III 中世神楽の現場へ

第8章 静岡県水窪町草木霜月神楽に見る湯立ての儀礼構造—「玉取り」と「神清め」—（池原真）
草木霜月神楽の概要／玉取り／玉取り儀礼の意義

第9章 「浄土神楽」論の再検討（鈴木昂太）
—『六道十三佛之カン文』の位置づけをめぐって—
『六道十三佛之カン文』の所蔵元栃木家について／『六道十三佛之カン文』の儀礼構造／梓巫女の口寄せ儀礼との比較

第10章 いざなぎ流「神楽」考—米とバッカイを中心に—（梅野光興）
神楽の章／神育ての章／バッカイの章

第11章 山の神祭文と神楽祭文（永松敦）
—狩猟祭文の解釈をめぐって—
神楽に勧請され祭られる神々は何か？／神送りと火の神、竈の神

第12章 九州における神出現の神楽と祭文（井上隆弘）
「神体出現の神楽」／九州南部の神出現の神楽／宮崎県の椎葉神楽における荒神と祭文／鹿児島県の蘭牟田神舞における荒神と祭文

【研究ノート】
青ヶ島における中世的病人祈禱祭文といざなぎ流との関係について
（ジェーン・アラシェフスカ）【プレモセリ・ジョルジョ 訳】

【資料翻刻と解説】対馬の大神供養（渡辺伸夫）
—「網教化」と「提婆」を中心として—



対馬の大神供養の祭文

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		（京都 取引コード 3402）	
冊数	冊	神楽と祭文の中世	本体8,000円（税別）	ISBN978-4-7842-1871-4	
お名前		tel		本書HPのQRコード	
ご住所	〒	e-mail			
送本方法	代引（書籍代＋消費税＋送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担） ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

神話・伝承学への招待

斎藤英喜編

これまで別々のジャンルで扱われてきた「神話」と「伝説」「昔話」について、総合的・学問的に研究する「神話・伝承学」。本書は11の章と7つのコラムにより、魅力ある「神話・伝承学」の世界へいざなう、格好の入門書。

▶A5判・266頁／本体2,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1813-4

平安時代陰陽道史研究

山下究明著

陰陽道の日本の特質とはなにか? その成立・展開期である平安時代を中心に、仏教・神祇信仰と並ぶ宗教としての陰陽道のあり方、陰陽師たちの天文観測技術や呪術・祭祀など活動の実態とその浸透、彼らの信仰などをさまざまな角度から明らかにする。陰陽師が残した日記である『承久三年具注曆』の翻刻を収録。

▶A5判・460頁／本体8,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1780-9

平安期の願文と仏教的世界観

工藤美和子著

【オンデマンド版】

願文自体が何を語ろうとしているのか分析することで、天皇から中下級貴族・女性・僧侶にいたる人々の仏教理解や具体的信仰のあり方、所属する社会集団内部でのそれぞれの構成員が果たした公共的な役割、寺院や僧侶と世俗社会との関わり方、具体的な宗教的実践のあり方を明らかにする。

▶A5判・368頁／本体7,400円(税別)

ISBN978-4-7842-7014-9

※早池峰岳神楽の継承と伝播

中嶋奈津子著

佛敎大学研究叢書18

早池峰神楽とは、岩手県北上高地の主峰早池峰山麓の2つの集落に伝承される岳神楽と大償神楽の総称である(2010年ユネスコ無形文化遺産に登録)。本書は岳神楽と、その流れを汲む神楽に着目し、その師弟構造と機能、さらに岳神楽の継承と伝播がどのような形でなされてきたのかについて、時代背景を踏まえながら解き明かす。

▶A5判・234頁／本体4,600円(税別)

ISBN978-4-7842-1676-5

散所・声聞師・舞々の研究

世界人権問題研究センター編

散所の人々が携わった芸能あるいは陰陽道などのかかわりを含めて、文献・絵画・地図の綿密な分析をこころみ、洛中・山城国・近江国における実態を浮きぼりにする。共同研究のまとめとしての座談会のほか、研究ツールとしての年表・文献目録・基本史料を収録、古代・中世社会の研究にとって欠くことのできない基本文献。

▶A5判・590頁／本体8,200円(税別)

ISBN4-7842-1219-1

宮古島狩俣の神歌 その継承と創成

内田順子著

沖縄県宮古島狩俣集落における伝統的祭祀歌謡(神歌)の永年のフィールドワークをもとに、歌われる歌の諸表現が、その都度どのように生み出され、それが演唱者や社会によってどのように意味づけられてゆくのか。歌詞のみによらない新たな歌謡分析の方法を提示した意欲的な一書。

▶A5判・300頁／本体6,600円(税別)

ISBN4-7842-1036-9

口頭伝承と文字文化 文字の民俗学 声の歴史学

笹原亮二編

「口頭伝達を重視する民俗学、文献を重視する歴史学」という固定観念は崩れつつあるものの、明確な方法論は未だ打ち出されていない。フィールドワークによる生の資料と、文字で伝えられた資料両者の扱いかたに着目し、新たな研究方法について論じた意欲作。

▶A5判・444頁／本体7,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1447-1

祭りのしつらい 町家とまち並み

岩間香・西岡陽子編／京極寛写真

祇園祭・天神祭をはじめ、城端(富山県)や倉敷など各地の祭り飾りや造り物などをとりあげ、町家とまち並みを飾る祭りの文化を紹介。カラー60頁。【目次】座敷を飾る—神像・家宝・造り物／絵画に見る祭りのしつらい—屏風と棧敷／屏風祭の戦後60年—祇園祭の青山飾り／祭りのしつらいと町家・町並み—大津・日野・奈良井 ほか

▶B5判・224頁／本体2,200円(税別)

ISBN978-4-7842-1360-3

※増補 陰陽道の神々【品切】

斎藤英喜著

佛敎大学鷹陵文化叢書17

コロンビア大学での発表をもとにした論考“牛頭天王の変貌と「いざなぎ流」”を収録して増補再版。疫神や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤生牛、そして式王子、呪詛神たち…。彼らは近代社会が封印し、消去した「陰陽道」の神々である。本書は、知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を平易に説く。

▶46判・356頁／本体2,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1644-4

※権者の化現 天神・空也・法然

今堀太逸著

佛敎大学鷹陵文化叢書15

日本国の災害と道真の霊・六波羅蜜寺の信仰と空也・浄土宗の布教と法然伝の3部構成で、仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた仮の姿について明かす。【内容】第一部「天神」日本国の災害と道真の霊／第二部「空也」六波羅蜜寺の信仰と空也／第三部「法然」浄土宗の布教と法然伝

▶46判・312頁／本体2,300円(税別)

ISBN4-7842-1321-4

祭礼と芸能の文化史

園田稔・福原敏男編

神社史料研究会叢書Ⅲ

神社・神道研究のみならず、地域史・政治史・社会経済史・文化史、さらに文学・芸能・音楽・民俗ほか幅広い分野の研究に資するという視点で神社史料の有効活用・研究の深化普及を目的として結成された神社史料研究会の研究結果から、神社を祭場・舞台として繰り広げられる祭礼と芸能を特集。

▶A5判・300頁／本体6,500円(税別)

ISBN4-7842-1159-4

三匹獅子舞の研究

笹原亮二著

神奈川県北部に伝わり、現在も演じられている三匹獅子舞をどのように理解し、記述することができるかという取り組みとその成果を収録。三匹獅子舞の上演の実態に焦点を定め、どのように上演しているかを、観察とインタビューを主とした現地調査によって得た情報・資料によって解明を試みる。

▶A5判・330頁／本体6,500円(税別)

ISBN4-7842-1151-9

翁の生成 渡来文化と中世の神々【オンデマンド版】

金賢旭著

中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとることで、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見いだし、さらに日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島のシャーマニズム文化の影響を指摘する。

▶A5判・250頁／本体5,000円(税別)

ISBN978-4-7842-7010-1

神霊の音ずれ 太鼓と鉦の祭祀儀礼音楽

朱家駿著

祭祀儀礼に用いられる太鼓や鈴・鉦の音楽的な機能と本質はどこにあるのか—祭祀儀礼の音をさぐるフィールドワークと象形文字に発した古代漢字(音・楽・鼓など)の分析を重ね合わせることで神霊と音のさまざまなすがたを明かす。

▶A5判・196頁／本体3,500円(税別)

ISBN4-7842-1095-4

民俗文化複合体論

芳井敏郎著

民俗文化を生活の諸相の複合体と捉え、庶民層から貴族層までを対象とした多ジャンルの個別研究を総合し、その根底にある日本民族の民族性を抽出する。客観性を重視し、個別研究の範囲で民俗事象の分析に終始してきた従来の民俗学への異議申し立ての書。

▶A5判・460頁／本体6,600円(税別)

ISBN4-7842-1237-X

天神祭 火と水の都市祭礼

大阪天満宮文化研究所編

平成14年の菅原道真公1100年祭を記念して、日本三大祭りのひとつである“火と水”に彩られた天神祭の歴史とすがたを豊富な図版と8篇の論考で多面的に明かす。天神祭図巻(吉川進)の全巻(初公開)ほか、カラー図版・関係図版を多数収録。

▶B5判・200頁／本体2,600円(税別)

ISBN4-7842-1092-X

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。